
岐阜県立飛騨高山高等学校

学 校 長 長瀬 信

学校住所 (岡本校舎) 高山市下岡本町2000-30 電話 0577-32-5320

(山田校舎) 高山市山田町711 電話 0577-33-1060

1 会議の名称 平成22年度岐阜県立飛騨高山高等学校 学校評議員の会議 (第1回)

2 会議の構成

委 員	足立加代子	石油販売会社役員 飛騨高山高等学校同窓会常任理事
	岩佐 純男	飛騨農業協同組合組合長
	川尻富士子	岐阜県指導農業士
	阪下 六代	弁護士 高山西ロータリークラブ前会長
	西永 由典	高山市社会福祉協議会会長 飛騨高山高等学校同窓会常任理事

(委員名は五十音順)

学校側	長瀬 信	校長
	林 博康	副校長 (全日制山田校舎)
	井戸端清司	副校長 (定時制・通信制)
	村瀬 賢二	事務部長 欠席
	大澤 正孝	教頭 (全日制岡本校舎)
	田中 洋二	教頭 (全日制岡本校舎)
	野田 光浩	教頭 (全日制山田校舎) 欠席
	児玉 芳廣	教頭 (定時制)
	水野 晃	教頭 (通信制)
	村田 和宏	教諭 (全日制岡本校舎・教務主任)

3 会議の目的 学校運営等について、地域住民や有識者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成22年7月6日(火) 10:00~12:00 飛騨高山高校 岡本校舎会議室
委員5名と学校側8名が出席

5 会議の概要

会議 I	開会挨拶 (林副校長)	進行 (田中教頭)
	自己紹介	
	学校の概要説明 (長瀬校長)	
授業見学	岡本校舎・全日制の3時限目	
会議 II	授業見学の感想・学校への意見・ご要望等	
	閉会挨拶 (井戸端副校長)	

(1) 学校の概要説明

平成17年度に高山高校、斐太農林高校、斐太高校通信制課程を統合し、飛騨高山高校になって6年目を迎えた。全日制、定時制、通信制の3つの課程があり、分校という形ではなく校舎が2つあるのは、都道府県立では本校のみである。さらに全日制に普通科・農業科・商業科・生活産業科の4つの大学科、普通科・園芸科学科・生物生産科・環境科学科・情報処理科・ビジネス科・生活文化科の7つの小学科を持ち、1学年9クラスを有する県内最大規模の学校である。

学校経営のコンセプトは「課題を強みに」。多様な学校であることは確かに課題ではあるが、他校にはない大きな資源でもある。これを活かすためには学校がひとつになることが大切であり、職員には、キーワードは「ひとつの学校」だと常に話している。校訓の具現化を大きな教育方針とし、「快活」は部活動、「友愛」は生徒会活動やボランティア活動、「創造」は特色ある教育活動を軸に具現化を図っている。

また、本年度は「地域から信頼され、愛される品格ある学校」を目指している。学校でいくら素晴らしい教育を実践しても地域のすべての皆さんに来校していただくことはできない。地域の方々に本校での教育活動の成果を知っていただくためにも、登下校等のマナー指導をさらに進め、一層地域から信頼されるよう取り組んでいく。学校開放についても積極的に行っている。新聞記事に掲載された本校生徒の活躍の様子は、A4版用紙にまとめて昨年の今頃は20数号、1年間では約140号に達した。今年度は既に55号と昨年度の倍を上回るペースで掲載していただいております。目標の200号達成に向けて頑張っている。今回のサッカーワールドカップでもわかるように、自分でなくても仲間の活躍は、本校の部活動や他の学科などを理解することにつながり、学校への帰属意識が高まったり、学校への誇りが持てるようになる。

現在、教頭を中心に各中学校へ出向いて説明会を行っているが、その際、要点として、①生徒が自慢の学校、②夢が実現できる学校、③県内最大規模の学校、以上の3点を必ず説明するようお願いしている。①については、県内有数の進学校から本校定時制に転任してきた先生が、定時制の授業は私語もなく、学習についても意欲的だと言ってくれたり、警察と連携したMSリーダーズ活動においても、地区の高校生全体で463名が登録した内、本校生徒だけで284名、61.8%であること。②については、たくさんの学科やコースで生徒の多様なニーズに応えられること。③については、全日制1015名、定時制58名、通信制124名の計1197名が現在在籍しており、本年度の新入生も411名にのぼることを根拠に説明している。

外部評価においてもほぼ90%が肯定的な評価をいただいている。例えば、入学してよかったと答えた生徒は90%、入学させてよかったと答えた保護者は96%にも及ぶ。しかし「小に注目」しなければならない。少なくとも10%の生徒、4%の保護者はそうでないと答えているのであるから、しっかり分析して今後の教育活動に活かしたい。

(2) 授業見学（岡本校舎・全日制の3限）

授業見学の内容

- | | |
|--------|----------------------------------|
| ・普通科 | コース別、少人数指導の授業等（国語・地歴・数学・理科・英語等） |
| ・商業科 | 専門科目及び普通科目の授業等（情報処理・保健・国語・英語等） |
| ・生活文化科 | コース別、少人数指導の実習等（フードデザイン・被服製作・保育等） |

(3) 授業参観の感想および学校へのご要望・ご意見等

- 意見1 生徒の活躍が掲載された新聞記事は、系統的に3年くらいまとめるとよい。学科や部活動別などに編集し直すと、それぞれの科や部活動の取り組みの様子がわかり、学校の記録となるとともに、他の学科などのいい意味での発憤材料にもなる。
- 意見2 定時制、通信制に在籍する生徒に何か特徴はあるか。
- 学校側 在籍者の年齢層は、定時制が16～25歳、通信制が16～70歳代前半と異なるが、ともに10代が大半である。中学時代や前籍校での不登校経験者は通信制の方が多い。
- 意見3 年齢構成から考えると、定時制と通信制はほぼ同じということか。
- 学校側 通学方法で選んでいるというより、対人関係による部分が多い。また、通信制の自学自習ができるか否かによる部分もあるように思われる。
- 意見4 全体的に静かに落ち着いて授業を受けている。これからの社会で英語は大切。英語は少人数授業が望ましい。普通科の少人数授業と職業学科での英語の両方見学したが、少人数でない一般的な授業では、人数が多すぎるように感じた。また、生活文化科の1年生授業は、検定に向けて少人数で熱心に取り組んでおり好感を持った。保健の授業では性教育が行われていたが、大変大切なことであり、高校でこうした授業が行われていることがわかり、嬉しく思った。
- 学校側 普通科における英数国の少人数指導は、本校の大きな特徴であり、県の厳しい財政状況の中、随分無理をお願いしているが、着実に成果があらわれている。
- 意見5 朝出勤する際、小学生が道路を横断する場面に出くわすが、学校によって上級生の態度が異なるように感じている。高校の場合も同じである。飛騨高山高校については乱れがない。どの授業でも先生方が熱心に指導しており、感心した。校舎内もきれいで、先生方の日頃の教育の賜物であると感じた。
- 意見6 教室が狭く感じたが、学校はきれいである。自分ももう一度ここで勉強したいなど思った。先生は熱心だし、生徒も真面目、服装もよい。携帯電話についての指導はどうなっているのか。
- 学校側 携帯電話の学校への持ち込みは禁止してはいない。携帯電話の普及に伴い、公衆電話の数も減り、遅くまで学習や部活動に取り組んでいる生徒の連絡手段としては必要であると認識している。ただし、本年度から朝のSHRから帰りのSHRまでは使用禁止としている。校内では、相手を思いやり、顔を見合わせてのコミュニケーションが大切であると考えてのことである。このことについては、生徒にその意図を説明しており、納得してもらっていると感じており、現在までそれに関する問題は何かない。
- 意見7 大変安心した。下校時に無灯火で下校する生徒への指導、女子生徒のからだを守る指導など、自分の命は自分で守るという指導も是非お願いしたい。
- 意見8 委員となって3年目となるが、年々環境がよくなっていると感じる。トイレのきれいな状態や授業に臨む生徒の姿からは、内面からしっかりしているのだと感じる。参観者がいるから静かなのかとも考えたが、生徒の様子からはそうではなく、いつもと変わらないことがうかがえる。ただし、もっと元気があってもいいのではないかと。発問に対しての生徒の態度、指名されないと答えない授業中の生徒の様子を見ると、内面の良さを是非外面でも見せてほしいと感じた。
- 学校側 学校は授業で勝負するのが当たり前である。現在、授業公開週間の真っ最中であり、もっと元気を出せるよう、さらなる授業改善に取り組みたい。

- 意見9 とにかく生徒が落ち着いている。6月下旬に同窓会で上高地に行ったが、その時のバスガイドは飛騨高山高校の卒業生であった。対応も誠実で大変よかったのだが、母校のことを随分自慢してくれ、気持ちがよかった。自分は福祉の現場にいるが、すべてにおいて資格の時代だと痛感させられる。一層資格を取る指導をお願いしたい。
- 学校側 資格については、全科とも積極的に取り組ませている。進路に有利になるだけでなく、身近に目標を設定することで、生徒たちの頑張る力につながっている。
- 意見10 飛騨高山高校は生徒数が多く、卒業後、結婚してこの地で暮らし、この地で子どもを育てる生徒が多い。飛騨高山高校を良くすることは地域を良くすることでもある。
- 意見11 飛騨高山高校の生徒はよく挨拶してくれる。
- 学校側 確かに本校は地元就職者が一番多い高校である。卒業生のおよそ4割が就職するが、そのうち、8割が県内、7割は地元である。本校の役割は地元で活躍できる人材づくり。このことをあらためて実感した。特に山田校舎においては地元の農業後継者の育成に今後も努めたい。授業参観中に、委員の一人が被服の実習をしている生徒を見て「髪をしばったらいいのに」とご指摘いただいた。我々にはなかなか気づかない部分でもある。改善していきたい。
- 意見12 先日、飛騨高山高校の生徒が商品開発した「宿讎かぼちゃアイス」を買いに行ったが、挨拶など生徒の接客態度がよかった。アイスももちろんおいしかった。
- 学校側 今年の秋には本校生徒が商品開発に携わったパンが、東海地区で販売予定である。

6 会議のまとめ

今年度の学校評議員の会議は、3名の委員を新たに迎えての第1回目であることから、あらためて学校全体の概要を説明し、全日制、定時制、通信制それぞれの近況を報告した。その後、岡本校舎全日制の授業を参観していただき、校内や授業、生徒の様子を見ての各委員から感想やご意見ご要望をいただいた。また、本会に限らず、お気づきのことがあればその都度ご意見やご要望をお聞かせいただくことをお願いした。

この会で得た貴重な意見や要望については、速やかに対応し、これからの学校運営に活かすとともに、さらに「地域から信頼され、愛される品格ある学校」づくりに努めたい。

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校長 長瀬 信

学校住所 (岡本校舎) 高山市下岡本町 2000-30 電話 0577-32-5320
(山田校舎) 高山市山田町 711 電話 0577-33-1060

- 1 会議の名称** 平成22年度岐阜県立飛騨高山高等学校 学校評議員の会議 (第2回)
- 2 会議の構成**
- | | | |
|-----|-------|----------------------|
| 委員 | 足立加代子 | 石油販売会社役員 |
| | 岩佐 澄男 | 飛騨農業協同組合組合長 |
| | 川尻富士子 | 岐阜県指導農業士 |
| | 阪下 六代 | 弁護士 |
| 育友会 | 西永 由典 | 高山市社会福祉協議会会長 |
| | 西垣内和雄 | 全日制育友会長 |
| 学校側 | 今村 彰宏 | 定時制育友会長 |
| | 長瀬 信 | 校長 |
| | 林 博康 | 副校長 (全日制) |
| | 井戸端清司 | 副校長 (定時制・通信制) |
| | 大澤 正孝 | 教頭 (全日制岡本校舎) |
| | 田中 洋二 | 教頭 (全日制岡本校舎) |
| | 野田 光浩 | 教頭 (全日制山田校舎) |
| | 児玉 芳廣 | 教頭 (定時制) |
| | 水野 晃 | 教頭 (通信制) |
| | 田屋 雅樹 | 教諭 (全日制山田校舎・教務主任、記録) |
- 3 会議の目的** 学校運営等について、地域住民や有識者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催** 平成23年1月25日(火) 10:00~12:00
岐阜県立飛騨高山高等学校 (山田校舎会議室)において、委員5名、全日制と定時制の各育友会長及び学校側9名の計16名が出席して開催した。会議の中で、代表生徒16名との意見交流会も行った。
- 5 会議の概要** (進行 野田教頭)
開会のことば (林副校長)
学校長あいさつ (長瀬校長)
生徒の発表及び質疑応答
今年度の学校状況の説明 (各教頭)
学校への意見・要望等
閉会のことば (井戸端副校長)

(1) 学校長あいさつ

本校を紹介する時はいつも「生徒が自慢の学校」と言っているが、本日の会議には全日制、定時制、通信制の自慢の生徒の代表が同席させていただいた。所属学科や部活動、生徒会活動等の様子を紹介させていただくので、忌憚のない意見や指導をお願いしたい。また、今回は学校関係者評価委員会も兼ねているため全日制・定時制の育友会長にも出席いただいたが、保護者の代表としての立場からの意見もいただきたい。

(2) 生徒の発表及び質疑応答

①岡本校舎生徒会長

4期連続で役員を務め、快適な学校生活づくりを目指して週2回生徒玄関で挨拶運動や身だしなみの声かけなどを行っている。球技大会や文化祭などの行事運営に取り組んできて、何事も仲間の協力無しでは成し得ないことを気づくことができた。

②山田校舎生徒会長

校訓の「快活・友愛・創造」につながる学習環境を整えるために、朝の挨拶活動などに取り組んでいる。ひのう祭(学校祭)では、子どもからお年寄りまでのより多くの地域の方々に、私たちの学習成果や農業の楽しさを伝えるために、様々な工夫を凝らした。悪天候であったにもかかわらず、大変多くの来校者があり感動した。先輩から引き継いだ良き伝統を伝えていきたい。

③定時制生徒会長

入学して5年になる。持病の悪化による休学後、迷い悩んだ末に復学したが、生徒会役員を務めていたことで勇気づけられた。生活体験作文発表会の学生審査員をして、様々な苦しみを乗り越え

て学んでいる多くの人を知り、自分を見つめ直すことができた。定時制は、高校卒業という目標だけでは続けられない厳しいものだが、仲間や家族のおかげで続けられている。

④通信制生徒会長

神社で働いており、神主になるために高校卒業資格が必要になって入学した。数少ないスクーリングでさえ通うのがおっくうだったが、自分より年下の人たちに優しく受け入れてもらい、学校へ行くのが楽しくなった。遠回りしたことを忘れるくらいに今は充実している。学校の仲間や職場の上司の理解に感謝したい。本日は他の課程の生徒と交流する機会を得たこともありがたく思う。

⑤ハンドボール部代表

全国制覇という高い目標を掲げる部に憧れて羽島から入学した。技術的に強くなるだけでなく、人として必要なことを身に付けたいと、学校行事等への協力を率先して行うことも心がけている。全国高校総体への10年連続出場や国体での3年連続5位入賞を果たせたが、今後も学校や周囲の応援に応えられるチームでありたい。また、下宿生活を送ったことでも多くのことを学べた。高山で人としても大きく変わることができ、かけがえのない高校生活になった。

⑥スキー部代表

全国大会での優勝・入賞を目標にしているハイレベルな部に惹かれて入学した。冬季に長く学校を空けて大会参加しているので、日常生活を正して感謝の気持ちを行動で表すことを心がけている。そのことが強くなるための必須要素であるとも思う。また、県高校総体での男女総合優勝や、全国トップレベルの部員数を誇る部になったのは、先輩方の長年にわたる取組の成果なので、後輩に引き継いでいきたい。個人としては卒業を機に競技生活を退くが、3年間の取組を誇りに思う。

⑦太鼓部代表

県内に10校、飛騨に1校の部である。学年に関係なく全員が一人の演者としての意識を持つことをモットーにしている。本年度初めて東京和太鼓国際コンテストに出場でき、プロの演奏に触れたり大人の世界のルールやマナーも学べた。自分が33代目の主将となる伝統を持つが、恵まれた環境に感謝している。周囲の支援に自分たちの行動と心に響く演奏で応えていきたい。

⑧書道部代表

本年度の目標であった県美術展での複数の入賞、県高校総合文化祭の共同作品で最優秀賞獲得、全国高校総合文化祭への2年ぶりの参加の3つをすべて達成でき充実した1年になった。来年度も高い目標を抱くとともに、地域の方々に本校の書道部を知ってもらおう活動も展開したい。

⑨MSリーダーズ代表

本校のMSリーダーズは総勢325名で、街頭での青少年の健全育成啓発活動、通学路での交通安全運動、生徒玄関での挨拶運動、校外での清掃活動、雪またじ運動などを行っている。私たちの活動が浸透し、全校生徒の意識も向上していると感じる。地域と密着した取組を今後も続けたい。

⑩普通科代表

3コースあり、私は文系四大コースで学んでいる。本科は自分の目標に合った幅広い進路を目指すことが良いところである。進学補習は部活動との両立が大変であったが、自分の進路実現に本当に役立った。先生方に感謝している。生徒会役員としての頑張りもいい経験になった。

⑪園芸科学科代表

流通サービスコースで果樹を専攻した。年間の各管理実習は大変であったが、収穫を迎えたとき喜びを感じた。農業は日頃の取組が結果に表れることを改めて確認した。卒業後は日本大学に進み、家業の果樹経営を通して地域密着型農業を目指したい。地域や社会に役立つ人間になりたい。

⑫生物生産科代表

幼少時から動物特に飛騨牛に興味があった。動物科学コースで動物と人間の関わりや希少種特に木曾馬の保護、家畜の誕生から出荷までを系統的に学んだ。卒業後は酪農学園大学で専門性を高め、将来は農業高校の先生になって生徒に農業の楽しさを伝えていきたい。

⑬環境科学科代表

森林に関わる仕事がしたくてこの学科に入学した。森林の大切さを伝えるために、森林環境教育を研究してきた。インターンシップでプロの森林官の技術のすごさと森林管理の大切さを痛感し、国家公務員を目指した。中学時代の自分には夢のようではなかった高い目標を環境科学科で達成でき、先生方に感謝している。

⑭情報処理科代表

私の学科は文武両道を目指しており、私も太鼓部と両立して全国商業高等学校協会や経済産業省が行う数々の検定に合格できた。地元のバス会社に就職内定したが、社会人になっても3年間の成果を糧に頑張りたい。

⑮ビジネス科代表

企業との共同商品開発などの実践的な学習や資格取得で、積極性や自発性の大切さを学んだ。また、3年間持ち上がっていただいた担任の先生の指導方針が私を育ててくれたと思う。経営コンサルタント会社に就職内定しているが、学んだことを活かしていきたい。

⑯生活文化科代表

食について専門的に学びたい、バレー部をやりたいという2つの目標で、親元を離れて高山へ来た。下宿生活をしながら小学校からの皆勤を続けている。部活動では部長として中学生の指導を始めたり、県大会でベスト8に入るなどの新しい歴史を作れた。食物検定1級合格やスイーツ甲子園中部ブロック大会入賞など、大好きな食を学んで結果を出せた。3年間充実していた。

- (質疑1) 高校生活を終えるにあたり、後輩に伝える課題があったら聞かせてほしい。
- (応答1) 校舎間の生徒交流が多くなったが、もう少しあっても良いと思う。
- (質疑2) 課程(全日制、定時制、通信制)間の交流についてはどう思うか。
- (応答2) 学習時間等の違いがあって難しいが、機関誌や通信類の相互掲示などでの交流を進めるといいと思う。
- (意見3) どの生徒も明確な目標を持っていることに感心した。各学科や部をはじめとする立派な取組みが新聞等で数多く報道され、一人の卒業生としても大変嬉しく思う。
- (質疑4) 部活動等全国レベルで活躍する生徒達に対して、OBや地域住民の立場から支援する仕組みは無いのか。
- (応答4) 大会出場のための遠征費用は、育友会費で支援したり、部ごとの保護者会から協力していただいているのが現状である。
- (質疑5) 全員がしっかりした目標と感謝の心を持っていることに感心した。生徒による呼びかけ運動を行っている立場として、本校の服装の現状をどのようにとらえているか。
- (応答5) まだまだ完璧ではないので、現状に満足せず取組を続けたい。
- (意見6) 先輩から後輩へと良い取組が引き継がれている。学校の教育方針がどの生徒にも伝わっていると感じた。卒業生は、社会に出てからも指導的立場で活躍してくれると思う。
- (意見7) 授業や行事等を観せていただくたびに感じていたが、本日も「生徒が自慢の学校」であることを再確認した。本校での3年間の学習が将来の大きな力になるので、生徒には自信を持って頑張ってもらいたい。
- (意見8) 保護者の一人としても、本日の生徒達の意見に感動した。本校の教育の成果の表れだと思う。子どもを預けて本当に良かったと思う。生徒に、将来充分恩返しできる力をつけていただいたと確信した。

(3) 今年度の学校状況の説明

学校長及び各課程の教頭より「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」の結果を踏まえながら、学校の状況について説明を行った。

(4) 学校関係者評価、学校への意見・要望

- (意見1) 本日の代表生徒だけでなく、全ての生徒が頑張っている様子を聞いて嬉しく思う。それが「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」において肯定評価が大変大きいことにも表れていると思う。校舎間の連携が随分進められているが、両校舎の生徒の心が一つになる取組をさらに進めていきたい。
- (学校側) 部活動をはじめ基本的な教育活動は一つの学校として進めている。年間7回の合同行事を開催したり、学校祭については相互に参加できるよう日程の工夫をしている。今後は、生徒会活動の一体化も推し進めたい。
- (意見2) 本校で飼育している繁殖雌牛が市と県の和牛能力共進会で最優秀賞に輝き、来年の全国大会への出品候補牛になっている。かつて無い快挙であり関係者としても嬉しく思う。一方、本校から毎年多くの就職者があるが、3年以内の離職者も10名に及ぶ進路先があるという事実が気になる。関係者として学校と連携して定着率の向上に努めていきたい。
- (学校側) 学校としても、早急に現状把握を行い、指導の改善を図りたい。
- (意見3) 私からの突然の質問に対して明確に即答できる様子、礼儀や所作が自然に身につけている様子を目の当たりにし、本校の教育の成果を垣間見た。2校舎の融合は限界に近いところまで推し進められていると思うが、生徒の口から「もう少し」との意見が出たところに、さらなる発展の可能性を感じた。また、3課程の生徒同士の関わりを深め多様な学びの相互理解を深めることも勘案しながら、一つの学校をさらに目指してほしい。
- (意見4) 校内における携帯電話の使用制限の指導は、社会の実情に合っており共感できる。学校統合から年月が流れ、今は両校舎が交流し良い競争心が働いて双方が伸びていると感じる。その成果が新聞報道等にも表れ、さらに相乗効果を生んでいると思う。
- (意見5) 機会あるたびに、保護者も学校教育に協力することが大切であると説いてきた。学校からの印刷物が保護者に届くかとか、学校での話をするかという設問の肯定評価がやや低いが、これは家庭の問題であり保護者の責任であると考え。また、本校の前身にはそれぞれ歴史がある。かつての「夜学魂」や「農林魂」といったそれぞれのプライドも生かしながら、学校をますます活性化して欲しい。

6 会議のまとめ及び閉会

本日は、生徒の生の声に耳を傾けていただき、温かい指導や示唆をいただき感謝申し上げます。本日もいただいた貴重な意見を生徒及び職員に伝えるとともに、今後の励みと課題としてとらえ、生徒、職員一丸となって学習活動、教育活動のさらなる発展に取り組んでいきたい。